

第4回勉強会の振り返り

国土交通省 都市局

令和3年3月10日

論点② 効率的・効果的なデータ収集、共有・管理、利用方法とは？

視点4 ● データを統合・可視化・シミュレーションする手段としての3D都市モデルの活用のあり方はどうあるべきか。

| 主なご意見 -要約- |

3D都市モデル活用のあり方について

- 今後のスマートシティや都市計画を考える上では、市民参加が重要。3D都市モデルをシビックテックや市民参加へつなげることが重要。
- 健康・医学分野では社会経済状況と個人の健康状態に深い関係性があるといわれている。社会経済状況を3D都市モデルの中で見える化することで3D都市モデルの幅が広がり、シビックテックの中で3D都市モデルが活用される可能性も広がる。ただし、社会経済状況と3D都市モデルをかけ合わせる際は、プライバシーについて十分に配慮が重要。
- シビックテックに参加する市民は自地域に一定程度の土地勘・理解がある。そのため、要介護者分布などの社会経済状況等は自治体・市民でパートナーシップを結んだ上で内部限定の活用、シビックテックの場では国勢調査等の解像度データ提示で対応、などバランスを持ってデータを活用することが有効なのではないか。
- e-StatやRESASの存在を知らない市民も多い。そのため、シビックテックの場で活用可能なサイトを定期的に紹介・周知すること必要。人材育成という観点からも周知は有効。
- バルセロナのデジタルプラットフォーム“Decidim”のような文字情報と、3D都市モデルのようなビジュアル情報を、どのように連結させていくか、アカデミックの中でも十分に議論できていない。逆に、上記のような取組（例：渋谷など）を突き詰めていけば、日本独自のデータ活用のモデルが構築できるかもしれない。
- まちづくりに新しい技術やデータを活用することは重要な観点である一方、まちづくりを担ってきた建築家やプランナーはデータを扱う教育を受けてきていない。人材のプールがあるところに人と企業が集積すると考えられる。そのため、データ活用ができるような教育や人材育成を真剣に検討する必要があると同時に、行政外部のデータ・サイエンティストの力を活かしたまちづくりの政策評価等を検討しても良いのではないか。

論点② 効率的・効果的なデータ収集、共有・管理、利用方法とは？

視点4 ● データを統合・可視化・シミュレーションする手段としての3D都市モデルの活用のあり方はどうあるべきか。

| 主なご意見 -要約- |

- 3D都市モデルは多種多様なデータをかけあわせることが重要。そのため、教育・人材育成時には、対象者が他領域・他分野に興味を持てるような配慮が必要。
- 3D都市モデルは、街の形状に関わるデータとは異なる人流・交通データと組み合わせ、シミュレーション等が実施できることが重要。
- スマートシティ実装にあたりオプションが増えてきている一方で、都市の経営・マネジメントが誰をやるかについて十分に議論できていない。データ基盤を整備し、多種多様なユースケースを見つけ、広く周知し、機運を高め、都市マネジメントの高度化する上では、サイクルがきれいに回るエコシステムが重要であり、そのためにはデータの鮮度を保つことが必要。
- 3D都市モデル構築のコスト面についても整理したほうが良いのではない。

論点

データ駆動型社会に対応したまちづくりに関する勉強会のとりまとめに向けて

方向性

- まちづくりの実務担当者が知りたいと感じる情報を整理した「データを活用したまちづくり～取組のヒントと事例～」(仮称)を作成

| 主なご意見 -要約- |

- データを活用したまちづくりに関する取組全体の底上げとして、これまでの事例・実績を提示することは重要。その一方で、新しい事例を生み出すようなヒントを情報発信することも必要。ボリュームが増えても良いので、本勉強会で議論されていない分野も含めた網羅的な取組のヒント集を提示してはどうか。
- データ更新においては、エリマネ組織と行政が一体となってCBD地区において高頻度でデータを更新していく事例を整理してはどうか。
- シビックテックの積極的利用について、第1部(取組のヒント)に概要等を記載し、事例を第2部に整理してはどうか。
- とりまとめの中には、「データを活用したまちづくりに関する実態調査」等の各自治体へのアンケート調査結果を掲載した方が良いのではないか。